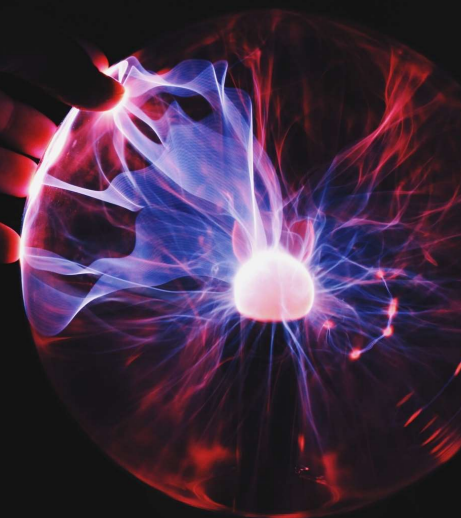


遺伝情報を用いたヘルスケアシステム構築に向けた取り組み

「個別化医療」の推進において、ゲノム情報の利活用は必要不可欠であり、「ゲノム医学」の知識は、医師、遺伝カウンセラー、メディカルスタッフなどの様々な医療関係者や研究者にとって必須である時代が到来している。遺伝学的検査の対象となる疾患も年々拡大傾向にあり、2019年度からは「がんゲノムパネル検査」が開始された。医学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても、遺伝医療・ゲノム医療の単元が新設され、ゲノム情報の特性を理解した上での診断や治療方針を決定する能力、更には、発展し続ける情報社会のなかで人工知能(AI)などを含めた科学技術を適正に活用して医療と医学研究を実践する能力等が求められている。

こうした現状を踏まえ、本演題では、メンデル遺伝性疾患から多因子性疾患を対象に、ゲノム解析で検出された膨大な数の変異から疾患関連変異を絞り込むための情報解析的戦略、および、ゲノム解析から得られた最新の知見に基づく「個別化医療」の可能性について議論したい。



演者：日笠 幸一郎 先生

関西医科大学附属生命医科学研究所 ゲノム解析部門 研究所長兼研究所教授

座長：石浦 浩之 先生

岡山大学学術研究院医歯薬学域 脳神経内科学 教授

日時

2024年 10月11日 12:10 – 13:10

会場

第1会場(3F ボールルーム BC)